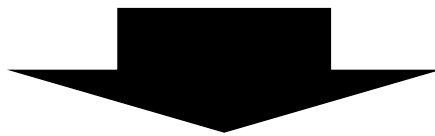


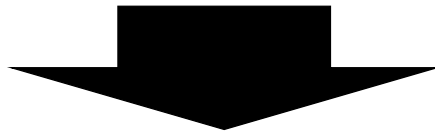
各事業の実績を基にした、施策の方向ごとでの進行管理について

評価をするにあたっての検討課題

- 目標がないと「出来た」「出来なかった」が評価できないため、各事業に目標の設定が必要であるが、事業によっては目標を設定しづらいものがある（啓発や相談事業など）。
- すべての事業に目標を設定すると、施策の方向とは関係なく、事業自体の評価になりかねない。



重点事業に目標を設定し、その達成状況を確認することは、施策の方向における進捗状況を諮る目安となる。



評価方法（案）

重点的に取り組む事業に目標を設定して進行管理を行う

次世代育成支援対策推進行動計画の総括評価を踏まえ、重点的に取り組むべき事業について、具体的な目標を設定する。全事業について、所管課から事業の実績報告を聴取するとともに、目標を設定した重点事業の進捗状況を子ども・子育て会議に報告し、評価を頂くとともに、計画の進行管理を行う。

具体的な目標の設定について

・参加人数や事業の回数を増加させるなど、何をもって「充実」させていくのか具体的な目標を所管課と調整する。